

猫のシャンプーやお風呂ってそもそも必要？ 愛猫を正しく洗う方法とノミ・マダニ対策の重要性について

猫のシャンプー、お風呂の必要性や、愛猫を正しく洗う方法、ノミ・マダニ対策の重要性についてお伝えしていきます。



猫にシャンプーをしない、お風呂に入れないのは不潔？

猫は待ち伏せ型の狩りを得意とする動物ですから、獲物に気付かれにくいように、もともと体臭が出にくい体質になっています。そのため、完全室内飼いの猫の場合、シャンプーをしなかったり、お風呂に入らなかったりしたからといって、猫の体臭が極度にひどくなることはほとんどありません。

ただし、毛がもつれたり、毛玉ができやすくなったりした場合、シャンプーをしたり、お風呂に入れたりすることによって、毛並みの乱れの補正に役立つことはあります。また、おしっこやうんちの臭いを取ったり、野外、屋根裏、床下などを歩いてきて体を汚してきたりした場合にも、シャンプーやお風呂は汚れを取るための有効な手段となります。

猫のシャンプーやお風呂の頻度

猫にシャンプーをするためにお風呂に入れる頻度については、特別な理由がない限りは年1～2回程度が、ストレスを与え過ぎず、ちょうど良い頻度であるとされています。なお、猫アレルギーが強いオーナー様の場合は、週1回程度のペースで猫のシャンプー・入浴を行うことで、アレルギーの1つである「Fel d 1」を減少させることができるという研究結果が出ています。

猫の正しいシャンプーの洗い方・お風呂の入れ方を解説

①猫のシャンプー・お風呂の前のお手入れ

シャンプー・お風呂の前に、ブラッシングを入念にやってあげてください。被毛についたほこりを落としたり、毛を絡まりにくくしたりする効果があります。また、耳掃除や爪切りを事前に行っておいてあげると、中耳炎の防止や、爪立ての防止にもつながります。

②猫のシャンプー・お風呂の下準備

ペット用のバスタブや風呂桶にぬるま湯を入れて、シャンプー・お風呂の下準備をしてください。猫には汗を分泌する汗腺がないため、熱中症になりやすいという特徴があります。そのため、温かいお湯を用意するのではなく、ぬるま湯程度が好ましいとされています。なお、シャンプーは猫専用のものを使用し、人間用のものはくれぐれも使用しないようにしてください。

③正しい猫の洗い方

胴体および足の洗い方

ペット用のバスタブや風呂桶にぬるま湯をためたら、猫の専用シャンプーを溶かし込みます。その中に、猫をゆっくりと体ごと入れ、シャンプーの溶液をまんべんなく体につけていきます。シャンプーの溶液が猫の体に馴染んだら、首から下に向かって、猫の体を洗っていきます。その後、背中から腹、腹から足先へとシャンプーを続けます。足の裏、指の付け根は汚れが溜まりやすいので、入念に洗ってあげてください。

しっぽや肛門の洗い方

臭腺と呼ばれる臭いを発する器官のある尻尾や肛門周辺は、入念に洗いましょう。肛門嚢が膨らんでいる場合は、臭いのもとになる液体が溜まっていることがあるので、尻尾を上げさせてお尻を浴槽の外に向け、指でつまむようにして中の液体を押し出してあげてください。

顔の洗い方

顔は濡らしたスポンジなどを利用して、額、目や口の周辺、顎などを拭いてあげるようにしてください。このとき、猫の目や耳に水が入らないようにくれぐれも注意しましょう。

④正しい猫の体のすすぎ方

猫の体をすすぐときは、シャワーの温度に注意してください。ぬるま湯程度に設定しましょう。シャンプーのすすぎ不足は皮膚炎やフケの原因にもなるため、地肌にシャンプーが残らないように、後頭部、首、背中、腹、足の順番で綺麗にすすいであげてください。

⑤正しい猫の体の乾かし方

猫の体を乾かすときには、タオルを2～3枚用意しておき、タオルで毛並みをこするのではなく、押し付けて水分を吸い取るようにしてあげてください。顔や指先などの部分は、キッチンペーパーのような吸水性の高い紙を用いると良いでしょう。

ノミ・マダニに関する最新情報をチェック!

📍 LINE 公式サイト LINE@友達募集中 →

